

N R A N E W S 1

新年あけまして おめでとうございます

本年も名古屋レール・アーカイブスをよろしくお願いたします

2007年1月

理事長 白井 昭

愛知県から NPO の認証を得る

ことができました

昨年12月22日、かねてから申請をしていた非営利活動法人(NPO)の認証を得ることができました。それに伴い、本年1月9日、名古屋法務局に登記も行き、晴れてNPOとしてのスタートをきることができました。これまで以上に鉄道資料の収集・保存と活用に邁進していきたいと思っておりますので、会員の皆様のより一層のご協力をお願いいたしますとともに、会員の増加についてもPR活動を実施してまいります。



県からの認証書類

2007年度事業計画

NPOとしてはじめての年の事業として次のものを考えています。

- ・名古屋市電の名車1400形が誕生して70年とNPO発足を記念して、1400形をまとめた本を発刊します。
- ・県内に保存されている電車の英国製コントローラーについての研究を実施します。
- ・寄贈資料の整理とデータベースの作成を引き続き行います。
- ・ホームページの開設とホームページ上でデータベース化された資料・写真の紹介を行います。
- ・NRA NEWSを少なくとも年に2回は発行します。

特定非営利活動法人名古屋レール・アーカイブス

設立趣旨書

1 趣旨

昨今の高齢化、長寿化の進展は鉄道趣味の世界でも例外ではありませんが、心ならずも他界される諸先輩方がおられるのも事実です。そうしたなかで、多くの諸先輩方が長年にわたって収集、作成された資料や写真等の記録が保存されることなく、散逸されていく現実も数多く見られます。

こうした資料等の保存には公的機関が当たるのが適当であると言われてはいますが、実際には鉄道資料に対する理解不足により、管理がずさんであったり、定められた保存期限を経過すると廃棄処分されたりする例がほとんどで、十分な保存は難しいのが現実です。

従って、鉄道関連資料を保存するためには、その価値を熟知した同好趣味者の手によることが相応しいのですが、それを行うには個人では限界があることに加え、持続性にも問題があります。

2 申請に至るまでの経過

上記のような趣旨に基づき、各種鉄道関連の記録および鉄道関連資料類を組織的に保存すると共に、考証を経て、報道・出版機関および個人の研究者等に提供し、よって鉄道の持つ意義と歴史を正しく後世に伝えることを目的に、名古屋レール・アーカイブス(略称 NRA)を 2005 年 8 月 7 日に設立致しました。

本会では、個人及び法人等からの寄贈により各種鉄道関連の記録及び鉄道関連資料類の保存を行うと共に、収蔵した資料については、公的機関の展示会等を除き外部への持ち出しを禁止し、散逸を防ぎます。さらに保存した資料を有効に活用することを目的に、それらを整理・管理してデータベースを作成し、外部機関(報道・出版)への資料提供や個人の研究に提供します。更に集積した鉄道技術資料を他分野の科学技術発展のための資源としての活用を図ります。

このような活動を積極的に行うためには任意団体としてよりも特定非営利活動法人(NPO)として活動する方が一般社会に対する寄与および理解が図りやすい点を鑑み、特定非営利活動法人としての申請を行い、2006 年 12 月には NPO 法人としての認証を得ることができました。

現在、保管場所・資金の確保を行うと共に、賛同者から各種資料(写真を含む鉄道に関する一切の資料)の寄贈を受けながら、それら資料の整理・保管・管理についての具体的な方法を確立致しました。なお、現時点で整理の完了した資料は 11,000 点、写真は 3,000 点を超えました。

運営にあたっては、これら資料の保存の意義を理解する有志により維持費を負担すると共に、データベースを作成・管理運営を行い、資料価値を高めて利用しやすい鉄道に関する情報発信の場として行くことを目指しています。

2007 年 1 月 9 日

特定非営利活動法人名古屋レール・アーカイブス
名古屋市瑞穂区新開町 22 番 9 号
理事長 白井 昭

保存資料 一口メモ ①

岐阜市電の方向幕

白井 昭

戦前は各地の市電において終電は「赤電」、終前は「青電」と呼び、方向幕に赤、緑のガラスを入れて、印象的だった。

特に酒飲みは、青電が行ったから、「打上げよう」と、なじみは深かった。

名古屋の1800形は、ピンクのFL(フラッシュライト)で美しかったが、昭和30年代で止めてしまった。しかし、都電、東京のバスは平成まで走り、終の早いバス路線では夜8時頃に赤バスが走った。

獅子文六にも東京市電の赤電の話があり、歴史は古く、なじみは深かった。どなたか各地のその歴史を調べ、伝えてほしい。

岐阜の青電は、上の写真のごとく緑ではなく、方向幕に水色の無地の欄があり、行き先は分からなかった。柳ヶ瀬の酔客の多くは、この赤電で帰った。この方向幕は、名古屋レール・アーカイブスで保存されている。

戦前の街は盛り場でも暗く、僅かに交番、赤提灯、駅の紫、橙、名鉄急行の緑灯、名古屋市電の紫灯くらいで、それだけに目立ち、今も印象に残っている。



単車最後の日に「団体」の方向幕を掲げた17号

1967(昭和42)年7月22日(長良北町)



岐阜市電の方向幕

ウバ車を写した絵葉書

藤井 建



長い名古屋市電の歴史の中に、現場で「ウバ車」というニックネームを持つ電車がかった。

名古屋電気鉄道創業時の1形(1~37)に次いで明治40(1907)~45年に大量に造られた38~167号を大正5(1916)年から8年までにそのほとんどを改造したものである。改造工事は、正面窓の取り付け、前照灯は新車並みに高上げ、腰凹みから羽目板とし、車内通路幅を広げるなどであるが、落とし屋根はそのまま、車体幅も一段狭く、波線入りができた。

大正11年の市営化に伴い、64両のウバ車が引き継がれたが、電気局での呼称は「小形改造単車SSA形」であった。ボギー車や大形単車の導入により順次廃車され、昭和10(1935)年に最後の5両が廃車され、姿を消した。

ほぼ20年にわたって名古屋の街を走ったウバ車であるが、その走る姿を写した写真(絵葉書)を見たことがなかった。その理由の一つにウバ車の運用が主に周辺部の路線であったことで、絵葉書の被写体の対象となる都心部を走らなかったことが挙げられる。

その走行中の珍しい絵葉書を入手したので、こ

こに紹介しよう。絵葉書の説明文には「外堀町通り」とあるのみだが、既存の資料や明治期の地図から判断すると、画面右側の洋館側が外堀通りの北側(現在の愛知県図書館南の景雲橋小園付近と思われる)で、電車は景雲橋方向(西側)へ向かって走っている。

さて、この洋館が何か気になる場所である。先の地図や名古屋の街を撮った写真集などからこの建物は西区役所ということがわかった。名古屋市は、明治41(1908)年4月に区制を引き、西、東、中、南の四つの区(現在の区域とは異なる)ができた。この西区役所もこのときに建てられたものであろう。

昭和20(1945)年5月14日の名古屋城が炎上した空襲の折にここも焼けたと思われる。画像で見ると立派な洋館で、これがなければ絵葉書も出なかったかもしれない。

写された電車は64号で、着色から小豆色に金縁の明治の典型的な電車で、方向幕は正面右側に寄ったタイプであることが見て取れる。

発行時期は、絵葉書のタイプから大正7年3月から昭和8年2月までの間であることがわかる。